

主 題：信仰の成長を目指して2 : 従順における成長1  
聖書箇所：ピリピ人への手紙 2章12-16節

「信仰における成長」ということで、今日から「従順における成長」について学んでいきます。私たち一人ひとりが主に対する従順においてより成長していくようにと、そのことをテーマにみことばを見ていくのですが、今日はピリピ人への手紙2章12節から学んでいきます。今日と来週にかけてこのみことばをごいっしょに見ていきます。

まず、12節のみことばを見ると、そこにはパウロの命令が記されています。「そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いの達成に努めなさい。」と、これはパウロのピリピ教会への命令です。「主に対して忠実であり続けていきなさい。主の命令に従い続けていきなさい。」という命令です。なぜ、そのようなことを命令したのでしょうか？

☆従順における成長

A. 「従順における成長」を命令した理由 : 神が喜ばれるから

主に従順に従うときに主が喜んでくださるからです。あなたが神に従順に従い続けていくなれば神はあなたのことを大いに喜んでくださる。イスラエル初代の王であったサウルが神から「アマレク人を聖絶しなさい」という命令を受けたにも関わらず、良いと判断した家畜を残して置きました。「これは神にいけにえをささげるためです。」と彼が預言者サムエルに言ったときに、主がサムエルを通して言われたことは「主は【主】の御声に聞き従うことほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。」(1サムエル15:22)でした。神が一番喜ばれることは「主に従い続けていくこと、主に対して従順に生きていくこと」だと言うのです。どんな奉仕よりもどんな献身的な働きよりも、神が最も期待されることは「主に従順に従っていくこと」です。神のおことばに従い続けていくその信仰こそが神がお喜びになることであると、そのことはみことばが私たちに教え続けていることです。

B. 従順に歩み続けるための方法

では、どのようにして私たちは従順に従い続けていくのでしょうか？私たち信仰者はみな、従順に従っていきたいという願いをもっています。しかし、同時に、従順に従っていくことが難しいことも知っています。そこでこの12節のみことばは私たちにどのようにすればいいのかを教えてください。パウロはここで四つのことを教えます。私たちが従順に歩み続けていくための方法です。

1. 責務があることを忘れない

「従う」ことは私たち信仰者の責務である、そのことを覚えていなさい、忘れてはいけないと言います。どちらでもいいものではありません。「主に従うこと」は私たちの責任です。このことは新しい命令ではありません。人類が造られたとき、アダムとエバがエデンの園にいたときに神は彼らにどのようなことを命じられたのか？創世記2:16, 17に「神である【主】は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。:17 しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」と、このように神は何をしていいのか、何をしてはいけないのかを明らかにされました。もし、ここで彼らに自由意志がないとするなら、神は「取って食べてはならない。」とだけで終わったでしょう。ところがみことばはその後に「それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」とあります。つまり、そこに可能性があるからです。彼らには選択があったのです。アダムとエバは自分たちの自由意志をもって神に逆らうという選択をしました。その後、すべての人間は罪を持ったもの

として、主に逆らうものとして生まれて来るのです。

それでも神はそのような人々に「わたしに従って来なさい」と命じ続けて来られたのです。たとえば、イスラエルに対して繰り返してそのような命令を与えられました。出エジプト記19：5「今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。」と。エレミヤ7：23-24にも「ただ、次のことを彼らに命じて言った。『わたしの声に聞き従え。そうすれば、わたしは、あなたがたの神となり、あなたがたは、わたしの民となる。あなたがたをしあわせにするために、わたしが命じるすべての道を歩め。』：24 しかし、彼らは聞かず、耳を傾けず、悪いかたくなな心のはかりごとのままに歩み、前進するどころか後退した。」とあります。いつも神はこうして私たち人間に対して「わたしに従って来なさい。」と言われました。そして、イスラエルの歴史を見ると、イスラエルが神の前にさばかれて大変な状況になると彼らは悔い改めて主に従い始めます。しかしまた、物事が順調に進むと神に逆らいます。そのことを繰り返していました。そのような愚かな罪深い人たちに対して神は常に「わたしに従え、そのときにわたしはあなたたちを祝福する。」と言われました。

私たちが本当に「主に従っていく」という創造された目的を果たしていくためには、私たちは生まれ変わることが必要です。私たちが生まれ変わることによって初めて、この目的を果たすことができる者へと変わっていきます。ですから、パウロはローマ人への手紙1：5で彼自身の宣教の目的をこのように語っています。「このキリストによって、私たちは恵みと使徒の務めを受けました。それは、御名のためにあらゆる国の人々の中に信仰の従順をもたらすためです。」と。言い方を変えると、パウロは神からこの務めに召されてキリストの福音を伝えていく。そして、その福音を通して救われる者たちが起こされていくということです。でも、パウロはその救われる者たち、クリスチャンのことを「信仰の従順をもたらす」という表現を使っています。まさにここに、クリスチャンの定義が記されています。

クリスチャンとは「神に従順に従うことを望みそのように生きている者」です。ペテロもこのようなことを言っています。I ペテロ1：2「父なる神の予知に従い、御霊の聖めによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。どうか、恵みと平安が、あなたがたの上にありますように豊かにされますように。」と。「御霊の聖めによって、」とあります。これは「御霊の聖めの働きによって」ということです。つまり、聖霊なる神が働かれるその働きによってということ。その働きが二つ書かれています。一つは「イエス・キリストに従う者に変えられていく」ということ、もう一つは「血の注ぎかけを受ける」ということです。聖霊なる神が働いてその人を救いへと導く、罪人を救いへと導く、そのことによって救われた者はイエス・キリストに従う者になると。また同時に、イエス・キリストの血の注ぎかけを受ける、つまり、その血によって聖められるということ。そのような働きを聖霊なる神は為すとペテロは教えるのです。

ですから、イエス・キリストによって救いに与った者たち、救われているひとり一人はその救われている証拠が心の中にあるのです。それは「神に従っていきたい」という願いです。そのような思いを神はあなたのうちに与えてくださっています。それが救われている人の証拠なのです。それがクリスチャンの定義なのです。だから、イエス・キリストによって救われた者たちは、いろいろな迫害があっても問題があっても、その中でイエス・キリストに従い続けていこうとしましたし、また、しています。初代教会のときにはいろいろな迫害がクリスチャンたちに及びました。ペテロたち使徒は多くの迫害を受けました。「イエス・キリストの名によって語ってはいけない。」と強制されたときも、彼らはこのように声高らかに宣言しました。「人に従うより、神に従うべきです。」(使徒の働き5：29)と、これはまさに神に従う者として生まれ変わった者たちの信仰の告白です。5：32にも「私たちはそのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊もそのことの証人です。」とあります。

ですから、主に従うことは新しく生まれ変わった者たちの務めです。私たちはそのようにして生きて

いくのです。パウロはIコリント4：1，2でこのように言っています。「こういうわけで、私たちが、キリストのしもべ、また神の奥義の管理者だと考えなさい。：2 この場合、管理者には、忠実であることが要求されます。」と。神はあなたに「わたしに忠実に従って来なさい。」と要求しておられます。また、旧約の預言者ミカもこのようなことを言っています。ミカ書6：8「主はあなたに告げられた。人よ。何が良いことなのか。【主】は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行い、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。」と。感謝なことに、創造主なる全能の神があなたとともに歩んでくださるのです。この地上の馳せ場をずっといっしょに歩み続けてくださる。そして、永遠をこの方とともに過ごすことができるという、このような祝福を私たちはいただいたのです。この真の神に従う者として生まれ変わった私たちに、そのように生きていきなさいと言うのです。新しく生まれ変わったのだから、造り変えられたのだから、そのように生きていきなさいと。救われた私たちの務めです。もし、「従うこと」に重荷を感じるなら、自分の心を吟味しなければいけません。従えない罪があるのではないかと…。まず、「従う責務」を覚えなさいとパウロは私たちに教えます。

## 2. 生きる目的を忘れない

12節に「いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、」とあります。このピリピの兄弟たちがパウロのことを愛していたのは明らかです。パウロがいっしょにいるときは、間違いなく彼らは主に熱心に仕えましたが、往々にして起こることですが、パウロがピリピの地から離れてしまうとその熱意が薄れてしまうのです。私たちにもよく理解できます。パウロはそのような人間の弱さをよく知っているのでしょう。ですから、この愛するピリピ教会のクリスチャンたちにこのように勧めるのです。「私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、」と。私がいなくても次のことを覚えて歩んでくださいと「あなたたちは私に仕えているのではない。だれのために生きているのか、だれに仕えているのかをしっかりと覚えなさい。あなたたちが主イエス・キリストに仕えていると覚えているなら、私がいようとしまいとあなたたちは忠実に歩み続けていくことになる。」と言います。私たちもそのことをいつも覚え続けていることが必要なのです。だれのために生きているのか、私たちは主のために生きています。主がいるときは？24時間であり365日です。主はあなたを離れてどこにも行かないのです。私たちが見て来たように、いつも私たちとともにおられるのです。だから、主の目はいつも私に注がれていると、そのことを覚えている人は、主のために最善を尽くしていこう、より熱心にこの方に仕えていこうとするというのです。特に、そのお方が戻って来ることが近いことを知っている人はなおさらです。

クリスチャンの皆さん、今、私たちが世界で起こっている様子を見たときに、私たちは聖書がいうように、イエス・キリストが戻って来られる日が近いことを確信しているでしょう。聖書がいうように世界は動いています。なぜ、また世界の目が中近東に、イスラエルに注がれているのでしょうか？主が言われた通りです。だから、私たちは目覚めて、主の再臨が近いことをしっかりと覚えることです。そして、主はマルコの福音書の中でそのことを人々に警告されました。世の終わりにふさわしい生き方、世の終わりに直面している者たちがどのように生きていけばいいのかを主は教えられたのです。マルコ13：33-37「気をつけなさい。目をさまし、注意していなさい。その定めの時がいつだか、あなたがたは知らないからです。」「気をつけなさい」と言われます。そして、「備えておきなさい」と言われます。いつその日が来るか分からないからその日のために備えておきなさいということです。34節から「それはちょうど、旅に立つ人が、出がけに、しもべたちにはそれぞれ仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目をさましているように言いつけるようなものです。：35 だから、目をさましていなさい。家の主人がいつ帰って来るか、夕方か、夜中か、鶏の鳴くころか、明け方か、わからないからです。」と、皆に責任が与えられているということが教えられています。皆さんには責任があるのです。この地上にあって為していかなければいけないことがあるのです。主に従っていくという責任です。そして、36節から「後悔をしないように」と言います。「主

人が不意に帰って来たとき眠っているのを見られないようにしなさい。:37 わたしがあなたがたに話していることは、すべての人に言っているのです。目をさましていなさい。」、いつ主人が帰って来るか分からないから、そのときに「しまった!」ということのないようにと。

面白いことに、35節には「夜」を四等分しています。「夕方」があり「夜中」があり、「鶏の鳴くころ」があり「明け方」があります。というのは、ローマの夜警はこのように4交代制で夜番をしたのです。夕方は午後6時から9時まで、夜中は9時から真夜中の12時まで、鶏の鳴くころは12時から3時まで、明け方は3時から6時までです。なぜ、このようなことを言ったのか？人々はこのような時間帯にはだれも旅をしなかったのです。夜は危険がいっぱいだからです。だから、主人は帰って来ないと油断すると言うのです。油断してはいけない、あなたたちが油断しているときにイエスは帰って来るからと。

だから、イエスが言われていることは「主にお会いするそのときを待ち望みながら今日を生きていきなさい。そうでなければ後悔することになるから。」という警告です。ですから、私たちはいつもいつかいたれのために生きているのか、イエスのために生きている、そして、その主がいつも私とともにいてくださる、だから、その主のために最善を尽くそうとするのです。

### 3. 生きる目標を忘れない

12節にこのように続きます。「恐れおののいて自分の救いを達成してください。」と書かれています。

#### 1) 「自分の「救いを達成してください」とは？

「救い」と記されていますが、これは「罪からの救い、神と和解して神の子どもとされる」、その救いではありません。ここで言われている「救い」は、私たちが信仰者として日々の信仰生活において犯す罪からのきよめのことです。あなたがクリスチャンとして毎日歩いていくときに犯すいろいろな罪からのきよめのことを、ここで「救い」と呼んでいるのです。これを「聖化」といいます。

#### ◎その証拠：

なぜ、このような結論を引き出せるか？実は「救いを達成する」という「達成」ということばにその答えがあります。

(1)「達成」の意味：ある特定の仕事や目標などを努力を払って完成するという意味があります。新改訳聖書の第二版は「達成してください。」ですが、第三版は「達成に努めなさい。」という訳がされています。「努力していきなさい」ということです。ですから、罪からの救いは努力をして得るものではないことは皆さんご存じのことです。罪からの救いは信仰によって信じるそのときに主から与えられるものです。しかし、ここで言われていることは「努力をして頑張る、そして、究極的に得る」ことです。

(2)「達成する」の時制：現在形を使っています。「努力を払い続けるように」と継続を意味しているのです。ですから、イエス・キリストを信じる信仰によって救われるその救いではないということがはっきりします。もし、この罪からの救いのある一定の期間や、いろいろな行ないを継続することによって究極的にいただくとするなら、あの十字架の犯罪人の一人は救われなかったのです。彼は十字架に架かってその瞬間にイエス・キリストを信じました。イエスは「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」(ルカ23：43)と言われました。救いを約束したのです。犯罪人は何もしていません。ですから、罪からの救いはイエス・キリストを信じる信仰によって与えられます。そして、その瞬間から私たちには救いの過程が始まるのです。日々キリストに変えられていくという過程です。そのことをパウロはここで言っているのです。

#### \* 結論

イエスを信じたあなたは聖霊なる神をいただきます。聖霊なる神はあなたを一日一日、一瞬一瞬キリストに似たものに変えていこうとします。そのことです。聖化です。そして、その働きを始められた聖霊なる神は、その働きを継続していきます。あなたが栄光のからだをいただくその日まで、その働きは継続します。死をもってか、空中再臨をもってか分かりませんが、栄光のからだをいただくその時まで、

あなたをキリストに似たものに変え続けるという働きは、主によって為され続けていくのです。このように徐々にキリストに似たものに変えられていくことを「変態」と呼びます。その働きが始まった、まさに、救いの働きがあなたのうちに始まったのです。Iヨハネ3：2に「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。」とあります。だから、そのときまで主の「変態」の働きは継続するのです。

## 2)「恐れおののいて自分の救いを達成してください。」とは？

確かに、私たちが従順に従うことによってイエス・キリストに似た者に変えられ続けていくから、私たちは主に従い続けていくことが必要です。そのことに関してパウロは二つの名詞を挙げて、私たちにより詳しい説明を与えます。みことばに従っていくこと、主に従っていくことが確かにあなたを変えていくことになるけれど、パウロはより詳しく注意を与えます。あなたが従うときにあなたは「恐れおののいて」従いなさいと。

(1)「おそれ」：怖がるという恐れもありますが、「敬う、尊敬を払う」という意味もあります。ですから、このことばは良い意味にも悪い意味にも使われるのです。ここでは明らかに良い意味です。神に対する思いのことです。

(2)「おののく」：「震える」という意味をもったことばです。主の前に立った天使たちのことがイザヤ書6章に書かれています。彼らは主を見たときに震えました。「神を見た！」と。イザヤもそうでした。聖い全能なる神を見たとして彼らは恐れて震えたのです。そのような思いを私たちは神に対してもっているのでしょうか？いつの間にか私たちは信仰生活のどこかで、そのような恐れるに値する、震えに値する聖い正しい神観を失ってしまって、何でも与えてくれる優しいおじいさんのような存在になっていたり、私たちの親しい友達のような存在になっていませんか？もしかすると、私たち信仰者に一番薄れているのはこのような神に対する恐れかもしれません。だから、パウロは私たちに教えるのです。そのような思いをもって神を崇めること、神のみことばに従い続けることが必要だと。

ですから、ここで「恐れおののき」というのは、私たちが神を覚えるときに当然そこに生まれて来る主に対する反応、その方を心から「恐れる」ということですが、実は、ここで言われている「恐れおののき」はそれだけではないのです。神を悲しませたくない、神を失望させたくないという思いも含まれているのです。バークレーがすばらしい定義をしているのでご紹介します。「尊敬と畏怖の念、いかなる面でも神に反することをしたくないとする思い、神を悲しませ、神を失望させることから生ずる恐れとおののきである。…愛の恐怖は、懲らしめを受けるかもしれないと思う恐れではない。それは、私たちがだれかを傷つけはしまいかと思う恐れである。キリスト者が恐れるただ一つのこと、神を傷つけ、キリストを再び十字架につけはしまいかということである。」と。ここで言われていることは、神だから私たちが震えるというだけでなく、この神を悲しませたくない、失望させたくないという思いです。そのような思いをもって主に従いなさいと言うのです。

## ◎信仰生活における成長の妨げ

(1) 神を悲しませ失望させるものの存在：たくさんあります。たとえば、私たちのうちに潜む罪はそうです。いかなる悪であってもそれを私たちが除かなければ神はお喜びにならないことは私たちは良く知っています。しかし、それだけではありません。

(2) 神を悲しませる神を失望させているかどうかを考えなくなった：これも大きな問題だと思いませんか？神を悲しませる罪を除かなければならないことはよく分かります。でも、ある信仰者たちは自分の歩みが神を悲しませているかどうか、神を失望させているかどうかということなど考えなくなってしまっているのです。まさに、信仰の形骸化です。今までやって来たことを継続しているだけです。朝早くデボーションをもっているかもしれない、聖書を読んでいるかもしれない、お祈りをし、礼拝にも、

いろいろな集会にも出席しているかもしれない、献金しているかもしれない、しかし、そこに心がないのです。もしかすると、その人はそれで満足しているかもしれませんが。このようにずっとしているから神は喜んでおられる、大丈夫ですと。残念ながら、このような人も神には喜ばれないのです。神の関心は「何をするか」ではなくて「どのような心をもって為しているか」です。

同時に、無関心ということも神を悲しませ失望させるものです。人々の救いに関しても教会の働きに関しても、神に仕えることに関しても無関心、何にも関心を示さないのです。これも悲しいことです。例を挙げましょう。黙示録3章に記されています。ラオデキヤという教会のことです。まさに、今話しているような教会が存在していたのです。神はこの教会に関して何一つ誉めておられません。驚きます。この教会は無関心な教会だったのです。そこで黙示録3：15、16にこのような衝撃的なことが語られているのです。「わたしは、あなたの行いを知っている。あなたは、冷たくもなく、熱くもない。わたしはむしろ、あなたが冷たいか、熱いかであってほしい。：16 このように、あなたはなまぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしの口からあなたを吐き出そう。」と。実は、このメッセージはラオデキヤの人々にはよく分かったのです。なぜか説明します。実は、ラオデキヤという町は水の事情において非常に悪かったのです。どこから水を引いて来なければならないのですが、この町は非常に裕福でしたから、そのことができたのです。彼らは町に何キロにも渡る地下水路を作りました。しかし、水路を流れていくうちに当然水は汚くなっていきます。そして、なまぬるくなってきます。その町を訪問した人たちはそのことを知らずに水を飲もうとしますが、「これは病気になる」といってみな水を吐き出します。このようなことが実際に起こっていたのです。そこで、主はこのようにお語りになったのです。水のことではなく教会のことです。「冷たい人」とは、公に主イエス・キリストを否定している人のことです。「熱い人」とは、信仰的に熱意に燃やされている人です。主のことを喜び主のために何でもしたい、主の栄光を現わしていきたいと願っている人です。ラオデキヤの教会の人たちはどちらにも属さなかったのです。彼らは彼らの水と同じようになまぬるかったのです。というのは、彼らは公にキリストの福音を否定していませんでした。また、教会にあってはいろいろな奉仕をしていました。しかし、残念なことに、彼らには主に対して、みことばに対して、教会に対して、伝道に対して関心がなかったのです。

なぜ、彼らが無関心だったのか？これが大切なことです。彼らは主キリストを知らなかったのです。知識はあったけれど主イエスを信じていなかったのです。ですから、驚くことは3：20、皆さんもよくご存じのみことばですが「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」とあります。これは文脈から個人のことでなく教会のことです。この教会の致命的な問題は教会の中に主がいないことでした。救われていなかったのです。ですから、みことばを見ていくと、聖められるように、あなたがたはそのようなものから聖められるようにと繰り返しています。そこで主は「悔い改めるように」と言われています。教会の中の一人でも悔い改めるならその教会は変わると言います。だから、もし、そうでなければ、旅人が水を吐き出すように、主ご自身もあなたたちのことを吐き出すと言われるのです。それは彼らが信仰をもっていると言いながらそうでない偽善者である可能性があるからです。もし、水を飲んでしまったら病気になってしまう、主ご自身もこのような教会に対して同じような思いを持たれるのです。まさに、病気になってしまうような、むかつくような吐き気をもよおすような状態です。

このような姿はまさに主によって語られました。マタイの福音書7章です。皆さんもよくご存じの箇所です。多くの者たちが自分は天国に入れると思っていました。でも、結果的に彼らは入ることができないのです。7：22「その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行ったではありませんか。』、このような働きをして来たではありませんかと彼らは言います。ところが、主はこのように言われます。23節「しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあなたがたを全然知らない。不法

をなす者ども。わたしから離れて行け。』と。多くの人々は主イエス・キリストのことを知っていました。聖書のことばを知っていました。しかし、主を知らなかったことが問題だったのです。ですから、『わたしはあなたがたを全然知らない。』と主イエスご自身が言われたのです。21節にあるように「わたしに向かって、『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行う者が入るのです。」と、どれだけのことを知っているのかではなく、主のみことばに従うかどうかです。神を悲しませ失望させている人がたくさんいると、悲しいことです。

### (3) 神への愛の欠如

しかし、同時に、神への愛が欠如している人も同じように、神を悲しませ失望させる者であることを覚えなければいけません。なぜなら、主を心から愛している人は喜んで主に従おうとするからです。パウロが「けれども、私が自分の走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることができるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません。」(使徒の働き20:24)と言いました。私は神から与えられた務めを忠実に果たしていきたい、そのためなら殉教しても構わないと。パウロはなぜそのような思いをもっていたのでしょうか？簡単です。主を愛していたからです。愛する人のためなら喜んで自分の一番大切なものをささげようとしています。自分のいのちです。パウロにとっては自分のいのちよりも大切なものがあつたのです。愛する主、神でした。Iテサロニケ2:8にも「このようにあなたがたを思う心から、ただ神の福音だけではなく、私たち自身のいのちまでも、喜んであなたがたに与えたいと思ったのです。なぜなら、あなたがたは私たちの愛する者となったからです。」とある通りです。

ですから、神を愛している者は喜んで神に従い、喜んで神にすべてをささげ続けていこうとします。もし、私たちがそのような愛に欠けているなら、今一度思い出さなければいけません。愛が欠けているなら神はお喜びにならない、悲しんでおられる、失望しておられると。もしかすると、私たちは神よりも自分の趣味であったり、やりたいことに時間を割いていませんか？考えていることがそのことばかりであるなら、最初の愛はいったいどうなってしまったのでしょうか？

私たちが主に従順に従っていくために、これは私たちの責務であると覚えること、だれのために生きているのか、どのような目標をもって生きているのか、そのことを覚えるとともに四つ目に、

## 4. 主イエスを忘れないこと

Iヨハネ2:6に「神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。」とあります。クリスチャンはイエスが歩まれたようにその模範に倣って生きる者だと言うのです。今日、私たちが見ているピリピ2:12の初めに「そういうわけですから、」と書かれています。パウロは2章の5-8節でイエス・キリストが何をなさったのかを記しています。イエス・キリストは父なる神のみこころに従順に従っていかれたと、そのことを記した後、パウロは「そういうわけですから、愛する人たち、」、あなたたちも従順でありなさいと続けるのです。つまり、パウロはピリピ教会の人たちの目をイエス・キリストの歩みに向けさせようとするのです。なぜなら、イエス・キリストが私たち信仰者の模範だからです。

### ◎主イエスはどのように歩まれたのか？

#### (1) 主イエスは父なる神のみこころを知っていた

みこころを求めながらそれに従っていったことが、ヨハネの福音書6:38、4:34、5:30に記されています。6:38「わたしが天から下って来たのは、自分のこころを行うためではなく、わたしを遣わした方のみこころを行うためです。」、このようにイエスは生きられました。

#### (2) 主イエスは聖霊の働きによって歩んだ

もしかすると、皆さんは驚かれるかもしれませんが、主イエスは聖霊なる神の助けをいただきながら生きたのです。イエス・キリストは完全な人であり完全な神だったのです。完全な人としてイエス・キリストがこの世を歩まれたときに、私たちにすばらしい模範を示されました。父なる神に従うという模

範です。そして、その信仰の歩みにおいて聖霊なる神の助けをいただきながら生きるという生き方です。ですから、主イエスがバプテスマを受けたとき、イエスは聖霊に導かれて荒野へ行き悪魔の誘惑を受けました。以下の箇所に「聖霊に導かれて、聖霊に満ちた」という表現があります。

**マタイ 4 : 1** 「さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。」

**マルコ 1 : 12** 「そしてすぐ、御霊はイエスを荒野に追いやられた。」

**ルカ 4 : 1** 「さて、聖霊に満ちたイエスは、ヨルダンから帰られた。そして御霊に導かれて荒野におり、」

そして、彼らがガリラヤに移った後はどうだったのでしょうか？

**ルカ 4 : 14** 「イエスは御霊の力を帯びてガリラヤに帰られた。すると、その評判が回り一帯に、くまなく広まった。」

**マタイ 12 : 18** 「これぞ、わたしの選んだわたしのしもべ、わたしの心の喜ぶわたしの愛する者。わたしは彼の上にわたしの霊を置き、彼は異邦人に公義を宣べる。」

**マタイ 12 : 28** 「しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。」

そして、ペテロもこんなことを言っています。

**使徒 10 : 38** 「それは、ナザレのイエスのことです。神はこの方に聖霊と力を注がれました。このイエスは、神がともにおられたので、巡り歩いて良いわざをなし、また悪魔に制せられているすべての者をいやされました。」

ということは、私たちの模範である主イエスを見たときに、主イエスは聖霊なる神の力をいただきながら生きたのです。だから、あなたに聖霊が与えられているのです。もちろん、いろいろな理由が記されています。その中の一つは、あなたに聖霊が与えられているのは、あなたが主の模範に従っていけるためです。そのことが可能なのです。主は父なる神のみこころを求めて生きました。私たちも主のみこころを求めて生きることができし、みこころを知ることができるのです。それは聖書によって知ることができるのです。ですから、詩篇 40 : 8 に「わが神。私はみこころを行うことを喜びとします。あなたのおしえは私の心のうちにあります。」とある通りです。私たちは神のおことばによってみこころを知るのです。だから、みことばが与えられているのです。私たちはもう何も神に反論できません。

主イエス・キリストがどのように生きたのか？聖書は教えてくれます。そして、私たちもそのように生きていくことができる、主のみこころに従って生きていくことができるのです。みこころは聖書を通して知ることができ、そして、イエス・キリストが聖霊の助けをもって生きたように、私たちも聖霊の助けによって生きることができるといえます。だから、従順に生きていくことができるのです。みことばはすごい約束を与えてくれました。後は、そのように生きなさいと言うのです。

あなたは救われたのです。主に従う者として救われたのです。あなたは主のために生きているのです。主がいつもあなたを見ているからその主のためにベストを尽くしなさい。あなたは主に似たものに変えられるその目的に沿って、その目標をもって生きている。そのためにあなたはみことばに従い続けていきなさい。あなたの模範であるイエスはみこころに従い聖霊の力をいただきながら生きられたから、あなたもそれができるといえます。神はみことばを通して私たちにすごい教えを与えてくださっています。繰り返します。神はそのように生きることをあなたに期待しておられます。

どうぞ、信仰者の皆さん、このように私も生きていきたい、イエスがそうであったように私もあなたに従順に従って生きていきたいですと、その祈りをもって今日この場を去ってください。そして、神が備えてくださる助けをいただきながらしっかりとみことばに従い続けることです。そのときに、あなたの主が喜んでくださるのです。

《考えましょう》

1. 救われた人の特徴を挙げてください。



2. あなたの主なる神は、あなたに何を求めておられますか？
3. 「恐れ、おののき」とはどのような意味ですか？
4. 「恐れ、おののき」が信仰の成長のために重要なのはどうしてですか？